

第8回、朝活かみいち、の報告

第8回は以下のように実施され、多いに盛り上がりました。

◆概要

日時 ; 3月05日木曜、7時から8時まで

会場 ; 上市文化研修センター1階喫茶店、M's cloud

進行役; 谷吉英樹さん(JAアルプス上市営農センター)

題目 ; 「農を上市で語る」

参加者 ; 13名、上市町内からは7名。

◆当日の様子を記録風に述べます。

農は文化であり生活の基本です。農については安心・安全、味、などの面で、皆さん関心が高いと考えて、今回は谷吉さんを囲んで座談スタイルとなりました。もちろん、スライドなしで、農への熱い思いを伝える谷吉さんとともに皆さん一緒に「朝活」ののりで「農」について語り合いました。

最初には、参加者各自の自己紹介から始まりました。その際には、「農」についての思いを織り交ぜていただきまして、「食の安全、ビオトップ、農によるコミュニティ再生、自分での栽培が一番、農がどうなる」などの思いが述べられました。

次に、谷吉さんの自己紹介へと続き、皆さんの農への思いを受けて谷吉さんの農について日ごろの思いを存分に語って頂きました。

■ 論点は三つ有、一つ目が米の生産から販売まで、二つ目が本来の農業とは、三つ目が安心・安全です。以下に述べます。

◆<1>米そのものについて

・富山では、農地の90数%が水稲です。富山は米どころだから米に限定して生産しているわけではありません。富山の土地は地下水位が高く、**水稲が作りやすい環境**だからです。野菜では水位が高く、向いていないのです。

→参加者：それで米作が多いんですか。

・**米の消費**について、昔は1人一年間二俵

(120kg)の米を消費していますが、今ではその半分の量です。それに外米が入ってきて、**米あまり状態**が続いています。このため、米価が下落し、昔は一俵2~3万円が今では1万円ほどになっています。

・米の生産量は10アール当たり530kgが平均です。ですが場所のよっては500kgに満たないところもあります。米価にして8万円程度です。

→参加者：やすいですね。

・今の**農家は補助金**によって助けられている事は大きいですが、でもこれには、都会の方から俺らも一生懸命働いているにもかかわらず補助金はもらっていない。なぜ農家がもらえるのか。という声を聞くにつけ、労働生産の見方が農村と違っていることを事の是非は別にして実感しています。

→参加者：安い外国産から自国の農家を守るには補助金ですね。

・農業では、作る人、加工する人、販売する人と**分業**している傾向が強いです。

→参加者：1人ですべてをやるということは発想しにくいのは農業人が職人と同じ気質なのではないでしょうか。

・酒米づくりのことや特産のサトイモが黒いこともはなされました。

・県内の産地間で競合しないように**時期をずらして出荷**するようにしています。

→参加者：いろいろと工夫をされていることを初めて知り、感心します。

◆<2>本来、農業は手間隙掛けて

・農業をやるなら、毎日**手間隙をかけて育てる**姿勢が必要です。兼業ですと、なかなかそれが出来ません。平日、家にいる人が中心にならないと。自分は兼業でやっているが、天気の良い日、何で一日中田んぼにいるのかって思いますし、早く家に帰りたいという気持ちもあります。(笑い)

→参加者：(皆さんの心の中では) そんなこと言わないで頑張ってください。

・**農業**を有効に使っています。外国からの生産

物は農薬により防腐しています。米も同じで、農薬を使わないと、虫の被害を大きく受けます。除草剤の使用も同じ理由です。草を生い茂らすと、その分、米の成長が阻害されるといったところでは。

→参加者：(皆さんうなずいておられました)

・**肥料**の施しは、米にとっては栄養補給です。補給は成長に合わせて何段階にも分けます。しかし、今では、肥料はカプセル状になっていて、肥料散布を一回にして、第一段階に効くもの、第二段階に効くように、時期が来るとカプセルが溶け出すようになっています。これは省力化のためです。

→参加者：手間隙掛けないんですね。

・**はさ掛け**(田んぼで架構を組んで刈り取った稲を逆さにして天日で乾すこと)の米はおいしい。茎にある養分が米粒に集まるからです。今のコンバインで穂先を刈り取るのではおしさはいまいちです。また、乾燥も天日が一番。電気乾燥も遠赤外線を使ったりしていますが、米にはやさしくありません。

→参加者：やっぱり米は昔ながらが一番なんですね。

◆<3>安心・安全

・**有機農業**では、農薬や除草剤は一切使いません。このため収穫量は農薬など使用の場合に比して少なくなっています。有機農家はITなどにより自分で販路を開拓しておられます。上市では5軒くらいしか有機の方はおられません。

→参加者：有機がいいとはいっても、大変なんですか。

・**安心安全な作物**は、自分で作るのが一番です。家庭菜園でやられることをお奨めします。

→参加者：自分とところで野菜を作っている。もちろんおいしいです。

・**消費者が作物を購入**する場合、一番が形、二番が味です。形が悪ければ規格品外の扱いとなってしまう。

→参加者：ちょっと形が悪くてもだめという考えがおかしい。消費者の立場で意識をか

えていきたいものですね。

◆<4>ほか

終わってからも話が続きました。参加者からは盛りだくさんの質問がありました。そのうちの一部を記します。

・**病院**では、農作物購入に当たりどんなことを考えておられるのでしょうか。

・1人農業もいいが、**大多数の農家**をどうしていくべきでしょうか。

・米あまりといっても、依然、米を作らざるを得ない状況が日本の農業の本質では。

・TVドラマで限界集落株式会社がありましたが、ご感想は。

・石川県河北潟の大規模農地では、観光農園と直販所をもうけていて、ひとつの農のあり方を実践していると聞いてますが。

■ おわりに

今回はスライド無しの語りが中心となりました。谷吉さんの熱い思いを皆さんでキャッチし、農について現状を目の当たりにするとともに、安心・安全の確保はいうにおよばず、手間隙掛ける大事さと大量生産とのハザマで、農業人が苦勞されている様を垣間見ることが出来ました。

また、農については大変大きな問題であるだけに、今度は的を絞って更なる語りをしていただきたいですねということになりました。

末筆になりましたが、谷吉さんは、終わった後、皆さんと話が出来て本当に楽しかったですよと言っておられました。

谷吉さん、ご参加の皆さん、どうもありがとうございました。

Togashi 編集記

